

空知で働く「いきいき女性」インタビュー

VOL.3

今回紹介する「いきいき女性」

農業 えんどう きょうご 遠藤 共子さん

空知のほぼ中央部に位置する奈井江町。人口約6千人の農業を基幹産業とする町です。

空知で、石炭の採掘が盛んだった昭和35年ころは、人口が1万8千人を数えましたが昭和47年に町内最後の炭鉱が閉山し、産炭地としての歴史に終止符を打ちました。

今回は、「健康と福祉のまち」として発展を続けている奈井江町で農業を営んでいる「遠藤共子」さんをご紹介します。



〇インタビュー

- ・農業に従事することとなったきっかけを教えてください。



トマト用ビニール
ハウス

ハウス内部
(品種：桃太郎)

農家を営む両親の下に生まれ、結婚前までは農協で勤務していました。

昭和61年に結婚しましたが、その年に実家で農業を継いでいた弟が亡くなったため、実家の農地を借りて本格的に農業を始めるようになりました。夫も兼業農家でしたが、これを契機に会社を退職し、専業となりました。

現在は、水田11ヘクタール、そば3ヘクタール、トマト用ビニールハウス15棟の規模です。



・遠藤さんは、町内で農業を営む女性と一緒にトマトジュース等を製造・販売する「味わい手作り工房 土梨夢（どりーむ）」を運営されていますが、これを始めようとしたきっかけを教えてください。

味わい手作り工房 土梨夢（どりーむ）



平成8年頃から、農業改良普及センターが行う簿記講座に参加していました。

この講座で知り合った仲間と、札幌で開催された農村女性の集いに参加し、そこで、道内各地で作られている加工品の数々を目にしました。

この商品を製造・販売している方々は、皆さん元気で明るく、また、売り上げも自分たちの収入に

なることから、自分たちでもやってみてみたいと思ったのがきっかけです。

平成11年に土梨夢を立ち上げ、現在は、3軒の農家さんと一緒に運営しています。

また、繁忙時には、6人のパートさんを雇用しています。

・トマトジュース等の製造技術は、どのようにして学んだのですか。また、工房や製造機械を揃える費用はどのようにしたのですか。

最初は農業改良普及センターの職員から加工の基礎について教わり、その後は自分で作るトマト等に合う形での加工を独学で研究していきました。

工房や製造機械などを揃えるための費用については、半額を道の補助金の活用し、残り半額は自社の持ち出しです。

- 遠藤さんにとって農業や農産加工品製造の魅力とはなんですか。

左「トマトジュース」 右「しそジュース」



尋さん) からとりました。アンコを白餅、豆餅、トマトを練り込んだピンクの餅で包んだもので、好評です。トマトジュースはリピーターが多く、美味しかったからまた注文しますとの声を聞けると本当にうれしいものです。

自分たちが丹精込めた作物や、それを原料に買っていただく人を思いながら作った商品が評価されることが何よりの喜びであり、最大の魅力です。

農業は、人にとって基本となる「食」に直接携われることが一番の魅力です。

土梨夢では、トマトジュース（年間7千本）、しそジュース（同1千本）のほか、雑穀米を作っています。また、町内のイベントなどで販売するため、ちひろ餅やのし餅、クッキー、パウンドケーキなども作っています。ちひろ餅の名は、次女の名前（千



奈井江町道の駅で販売の「雑穀米」

- これまで、農業や加工品製造を続けてくるにはご苦労もあったと思いますが 家族の協力があつたから、続けてこられたと思います。特に、義母には、子供の面倒を見てもらいました。

- 娘さんが農業関係の大学に進学されたとのことですが

次女が農業関係の大学に進学しました。

親の姿を見て進学先を決めてくれたのなら嬉しいですが、ただ、次女には、農業は簡単ではないこと、農業経営を続けて行くことは更に難しいこと、そして、一人ではできないことを知っておいてほしいですね。

• 遠藤さんは、他にも様々な活動をされていますね。

平成19年に「ママーズファーム」を始めました。これは、農家の若い奥さんを中心としたグループで、何かやってみたいけど加工品製造はちょっとという人に参加してもらい、子供たちの学校給食用の野菜を栽培しています。また、平成25年には、雑穀を栽培する「白山ファーム」を始めています。ここでは、5人が1人1品種の雑穀を栽培しています。

食べることは、生活の基本です。私たちは、農家として、もっと食にこだわっていきたいと考えています。また、消費者とのふれあいを増やすなど、「楽しみを持った農業」を続けて行きたいですね。

【ご家族へのインタビュー】

○ 次女 千尋さん

• 千尋さんからみて、農業（仕事）をされているお母さんはどう映りますか。

私が小さいころからずっと農業をしていて、今では一番尊敬できるお母さんです。

• 農業関係の大学に通っているとのことですが、やはりお母さんの影響でしょうか。

確かに最初は、自分の家が農家だからと入学しましたが、経済や農業を学んでいくうちに、今では自分から進んでこの道を真剣に考えています。

• 将来的にはどのような農業を行っていきたいと思っていますか。お母さんの後を継ぎますか、それでも全く新しい形に進んでいきますか。

実家が作り上げてきたものを継いでいくことも考えていますが、その上で現状起こっている農業での問題点など、そういった様々なことにも取り組んで行きたいと考えており、将来についてはまだ勉強しながら検討中です。